

開館 20 周年特別展
東京大空襲
・ 戦災資料
センターの
開館とそれ
を支えた人
たち

2022年3月5日(土)
～4月24日(日)



会 場：東京大空襲・戦災資料センター
1階 映像・講話室

※新型コロナウイルス感染症対策のため、
来館は原則予約制 (電話 03-5857-5631)



- 休館日：月曜日
(月曜日が祝日または振替休日の場合は原則開館し、火曜日に休館)
- 時 間：10時30分～16時
- 入館料：一般：300円・中・高校生：200円・小学生：100円・未就学児・障がい者：無料
- ※通常の入館料のみ
- 住 所：東京都江東区北砂 1-5-4
- 電 話：03 (5857) 5631

2002年3月10日、東京大空襲・戦災資料センターは開館しました。東京大空襲をはじめとする東京の空襲と、日本のみならず世界の空襲や戦災までをテーマとする国立民営の平和博物館として歩んできました。20周年を迎える今、その歩みの原点である開館に至る経緯や、開館前後のセンターの活動とそれを支えた人々を振り返ります。

1970年8月5日、評論家の松浦総三、作家の早乙女勝元を中心として、東京空襲を記録する会が結成されました。記録する会は、当時の美濃部亮吉都知事に空襲体験記の作成を求め、都知事が快諾して、その製作も担うことになりました。『東京大空襲・戦災誌』全5巻に結実するその作業を通じ、2巻にわたる体験記と当時の資料3巻という貴重な史料がまとめられたのです。体験記に加え、当時のモノ資料なども寄せられたこともあり、記録する会は続いて東京都に戦災記念館の建設を求めます。

東京都は、記録する会の要望に対し、当初は江戸東京博物館の柱として空襲を取り上げる方針を示し、後には東京都平

和祈念館（仮称）構想を掲げ、計画を進めていきました。

しかし、その後の財政難や展示内容の検討過程で、一部の字句などを取り上げた批判が行われた結果、東京都平和祈念館（仮称）構想は事実上凍結されました。それを受けて、東京都に預けられていた戦災資料の一部の返却または保管費用の負担を求められ、記録する会は財団法人政治経済研究所と共に東京大空襲・戦災資料センターの設立に取り組みます。

その実現には、記録する会発足時から、地域で活動し、独自にも体験記をまとめた、東京都教職員組合江東支部や地域の女性たちなど、様々な人びとの長年にわたる取り組みや協力が大きな力になりました。加えて、報道などで広く知られた結果、日本中、さらには世界からもセンター建設に多くの寄付をいただき、建物の建設とセンターの開館に至りました。

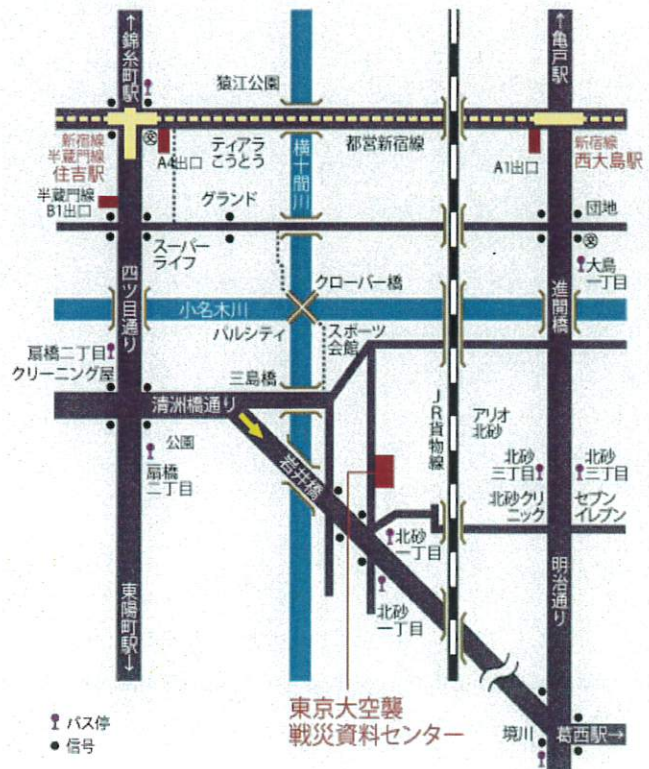
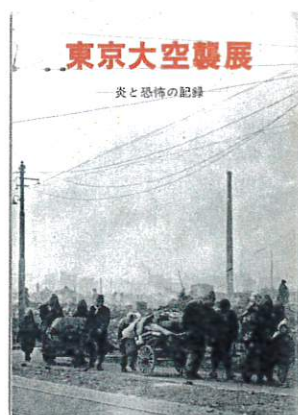
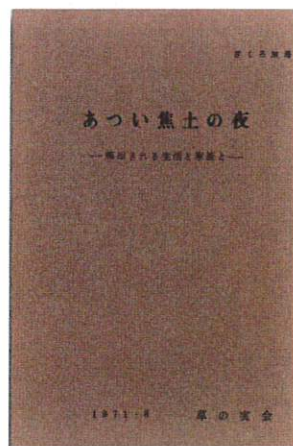
今回の展示では、こうした開館に至る経緯や支えた人びと、そして、熱気あふれる開館当初の様子や、体験者など多くの人びとが集った様々な活動を紹介します。

東京に平和を考え
交流する拠点を！



建設資金と
資料提供のお願い

財団法人 政治経済研究所
協力 東京空襲を記録する会



- 東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄新宿線「住吉」駅より徒歩約20分
- 都営地下鉄新宿線「西大島」駅より徒歩約20分
- 都営バス
 - 「見番通り入口」停留所より徒歩約5分
 - 「北砂一丁目」停留所下車 徒歩1分
 - 「北砂三丁目」停留所下車 徒歩7分
 - 「扇橋二丁目」停留所下車 徒歩10分

東京大空襲・戦災資料センター
東京都江東区北砂1-5-4 TEL 03(5857)5631